

こども芸術学科

教育目標（育成する人材像）

「子どもの未来」と「これからの社会」をつくるために、なぜ人は表現するのかという芸術の根源をたずね、人が全的に成長する上で芸術の果たす役割と可能性を探求します。子どもと関わりながらその存在価値を認め、芸術する心をとおして創造的な生き方のできる人、他者と支えあうことのできる人、社会に向けて発信できる人を育てます。

ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

修得する能力

探求力	子どもをとりまく環境を契機に、世界を好奇心や批評的視点をもって観察し、自らの目標や課題を発見することができる
思考力	必要な情報を収集、調査し視野を広げ、論理的にものごとの関係性について整理、分析し、理解することができる
発想・構想力	視点の転換と創意工夫により、独自のイメージを発想し、制作や実践のための計画をたてることができる
表現力	テーマや状況に応じた表現方法によって、他者に向けて的確にイメージや提案を具現化することができる
行動力	対象の理解に努めながら、自ら積極的に子どもや社会とかわることができる
継続力	目標に向かって、粘り強く試行錯誤しながら制作や実践を続けることができる
コミュニケーション力	自己を知り、他者を尊重しながら、よりよい人間関係を築き、支えあうことができる

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

- こども芸術学科では、「こども・芸術・教育」をキーワードに、理論〈Basic Theory〉、技術と技能〈Skill and Ability〉、「こども芸術」の実践〈Practice in Child Care〉、キャリア形成〈Career Development〉の4つにカテゴライズされた科目を総合的に学びます。
- 保育実習、幼稚園教育実習、児童館実習などとおした学外での実習のほか、大学附置機関「こども芸術大学」で実践的に学びます。また、そのふりかえりのなかで、それぞれの「こども芸術」を探るきっかけとともに、自己のキャリア形成を行います。
- 1・2年次では、幼児教育・保育・福祉などの基礎的な知識や教養を学び、自分の意見を述べられる力と、子どもと接するためのコミュニケーション力を身につけます。また、造形表現・身体表現・音楽などとおして感覚をひらき、気づきをさまざまな方法で表現する力を身につけます。
- 3・4年次では、「こども・芸術・教育」をもとにそれぞれの到達目標を設定し、制作や社会参画の実践を展開します。卒業研究・制作に向けて計画、表現、フィードバックとおしたテーマ探求から自己形成を目指します。こども芸術学科は、子どもを深く理解することの出来る表現者、芸術する心を備えた保育者を育成します。